

2025年度第2回企業倫理委員会

2025年9月4日

委員長挨拶

- 2025年度第1四半期決算は、島根原子力発電所2号機の稼働による収支改善や燃料費調整制度の期ずれ差益の拡大などはありませんでしたが、卸・小売事業における競争進展の影響や支払利息の増加などにより、「減収・減益」となりました。

今年度の業績予想については、市場価格の低下に伴う卸・小売事業における競争進展および送配電事業の利益減少により、対前年で減益を見込んでいますが、島根2号機の安定運転をはじめ、資機材調達価格の低減等の効率化施策の深掘りや効果的な卸電力市場の活用により、利益の更なる上積みに取り組めます。

- また、現在、新たなグループ経営ビジョンの検討を進めていますが、2026～2030年、そして2040年に向かって当社グループの方向性を決める非常に重要なビジョンと位置づけております。本社主導ではなく、事業所やグループ企業の意見も取り入れながら作り上げているところであり、取りまとめ次第公表させていただく予定です。
- さらに、山口県上関町で調査を進めておりました原子力発電所の使用済燃料中間貯蔵施設の設置につきまして、2023年8月にボーリング調査と立地可能性調査を開始し、慎重かつ入念に調査・分析を進めてきた結果、立地は可能であると判断したことを、先日、上関町長へ報告いたしました。今後は、上関町や周辺自治体に対して、調査結果や中間貯蔵施設の必要性等について、丁寧に説明してまいります。

■ 一連の不適切事案に係る対応状況およびコンプライアンス推進施策の主な実施内容について

一連の不適切事案に係る対応状況、コンプライアンス推進施策の主な実施内容について説明した後、今後の取り組みにあたり有益なご意見をいただいた。

■ 主な意見

- コーポレートカルチャー変革推進会議に関して、「意識改革」は一朝一夕にはいかず、アンコンシャスバイアスを取り除くのは並大抵なことではないことは、誰もが自覚していることと思う。「挑戦」をキーワードにこの難題がどのように紐解かれるのか、大いに期待したい。「成果をどのように把握するか」についても検討していく必要があると考える。
- 企業文化の課題に対し、ありたい思考・行動様式を掲げて各種の取り組みが進められると認識するが、特に現場における作業安全の確保やコンプライアンス遵守、電力の安定供給など、守るべきものが多くある中で、何を「自ら考え行動する」かを示すことも必要ではないかと考える。
- 社員意識調査の結果について、全カテゴリーで改善しており、今までにないような数字が出てきているという印象。様々な施策の効果が表れたものと認識している。自由記入欄には重要なポイントが多く含まれていると考えるため、真意をよく汲み取り、適切な対応を行うことが必要である。少数意見だからといって無下にすることがないようお願いしたい。
- 不適切事案の事例共有のポイントにあるように、「隠さない」ことは大事であるのはもちろんだが、「隠す」には2パターンある。一つは「蓋をしてしまう、報告しない」ということ、もう一つは「虚偽の報告をする」ということである。特に「虚偽報告」は、犯罪行為として摘発される可能性があるだけでなく、企業のレピュテーションを大きく下げる要因にもなるため、十分ご留意いただきたい。

■ 内部通報制度の運用状況について

2025年5月～7月における内部通報制度の運用状況について報告し、次のとおり意見をいただいた（通報件数：4件）。

■ 主な意見

- 通報案件については、概ね適切に対応されている。
- いずれの事案も非常に細やかに対応されているという印象である。